

特集 家康経済圏

歴史資産を掘り起せ!

平成27年(2015年)は、徳川家康公没後四百年にあたる節目の年。そこで、浜松市、静岡市、岡崎市の3市と各商工会議所、静岡県、および家康公ゆかりの関係団体が結束し、家康の功績を全国や世界に発信しようとする「徳川家康公顕彰四百年事業」が動き出した。

浜松商工会議所では、その一環として「浜松 闘将・家康プロジェクト」を立ち上げ、浜松時代の家康の物語を再発掘することによって、新たな「ものづくり」と「ことおこし」に挑戦する。

このプロジェクトのアドバイザーを務める鈴木智博氏に、歴史で地域を活性化する方法について話をうかがった。



歴史が地域を元気にする!

「浜松時代の家康は一番面白い。そのことに地域の人々がまだ気づいていないのも大きなチャンスです。なぜなら、これから未開拓の分野を掘り起こしていけるわけですから。」

から「……瞳を輝かせ、そう意気揚々と語るのには、社会起業家の鈴木智博氏。企画集団「戦国魂」を立ち上げ、現在も全国18カ所の自治体の「歴史によるまちづくり」に関わる中、担当手がける「浜松 闘将家康プロジェクト」においても指南役を務めている。

最近全国各地で盛り上がりを見せる「戦国ブーム」。それを支えるファン層は、歴史、城ガール、戦国ゲームファン、歴史マニアなどと呼ばれ、さまざまなジャンルに分かれる。しかし、誰もが共通して強く引かれるのは戦国武将のキャラクター性だ。鈴木氏はそこに着目し、武将に関わる地域の歴史を掘り起こし、あらゆる機会を利用して歴史を体感させることで地域の活性化やまちづくりを推進する。

そんな鈴木氏が個人的に最も敬愛している武将こそ、実は家康なのだという。「家康ほど日本国の将来を真剣に考えていた武将は当時いなかったでしょう。その結果、世



大ヒットオンラインゲーム「戦国IXA」に登場する徳川家康が描かれた絵馬。地域活性化コラボレーションとして、家康とゆかりの深い五社神社・諏訪神社、浜松八幡宮に登場

7月14日(月)浜松商工会議所にて鈴木氏による公開講演会開催(無料)詳細は本誌P18参照

界史上まれな265年間もの平和体制を築き上げたのです。家康のアイデンティティは日本国内のみならず、世界に訴えかける力を持っていきます。日本が海外に向けてクールジャパンを売り込む際の最終兵器にもなり得ると思います」と鈴木氏は熱く語る。

今回の「浜松 闘将・家康プロジェクト」では、浜松時代の家康のイメージを史実に基づいて一新し、家康ゆかりの地としての新たな魅力を創造するのが目的だ。そして、商品やサービス等の開発を推進するとともに、全国から歴史ファンを呼び込むための観光資源を構築し、交流人口やインバウンド観光の拡大を目指す。

浜松時代の家康の魅力

しかし実際のところ、浜松市では「家康公ゆかりの地」としての資産価値があまり理解されず、市民も「家康公」にさほど思い入れがないのが現状だ。では一体、浜松時代の家康の歴史にどのような魅力があるのだろうか。鈴木氏は次のように語る。

「家康が浜松にいたのは年齢的に最も脂の乗った時期。さまざまな



浜松 闘将・家康プロジェクトアドバイザー 鈴木智博氏

危機に直面しながらも常に攻めの姿勢を貫き、数々の合戦を闘い抜きました。家康の最大の負け戦といわれる『三方ヶ原の戦い』ですら、勝利した信玄をも震撼させるものでした。つまり、浜松は闘将・家康の天下取り伝説のメインステージなのです」

歴史コンテンツによるまちづくりの手法

今回のプロジェクトでは、こうした浜松時代の剛勇な家康の歴史を掘り起こし、いかにしてパワーアイテムやパワースポットを見つけ出すかが大きな課題だ。その出発点は「歴史をエンタメとして捉えることにある」と鈴木氏は語る。

「第一に重要なのは『ビジュアル

化』です。浜松時代の家康のイメージを象徴し、誰もがカッコいいと思えるようなビジュアルを採用すれば、必ずそれに賛同する人々が現れます。次に、「歴史コンテンツの掘り起こし」を行い、それをストーリー化して「ものづくり」とのパッケージで打ち出していく。さらに、浜松に根付いた家康の「アイデンティティ」をまちづくりや企業運営に反映させれば、ビジュアル・コンテンツ・アイデンティティの3つがリンクしてものすごい力を発揮します」

多数のプロジェクトを手掛ける鈴木氏は、このような「歴史によるまちづくり」に際し、毎回5カ年計画で構想を練る。そして、1年目に



鈴木氏のスマホには鈴木家の家紋の八咫鳥(やたがらす)。携帯電話には徳川の三つ葉葵、そしてストラップは家康が身につけた羊歯(しだ)の前立ての兜

は誰もが楽しめて興味を抱かせる「体験型イベント」を仕掛けるのが通例だ。そして2年目以降は徐々にアカデミックな内容を盛り込み人々の意識を高めていく。「体験型イベント」は、人々に歴史的な出来事を疑似体験させることで史実に説得力を持たせ、さらなる興味を誘起する。今年の8月に行われる「浜松歴史絵巻2014」第62回七夕夏祭り〜においても、鈴木氏により数々の体験型イベントを盛り込み、来街者が市街地を回遊する仕組みを作ることによって商店街への誘客を図る。

「歴史コンテンツは無尽蔵。浜松には宝がまだまだたくさん眠っています」と鈴木氏。「家康への敬慕の念が高まり、また、家康が有能な荒くれ家臣団に囲まれていたように、現代の浜松人も『我らこそ家康家臣の末裔だ』と団結し、日本一を目指すのが僕の描く理想形です」